

～目次～

【1】TKK活動

【2】加盟団体の活動

【3】行政、他団体の活動

— 各記事の前の ●は活動報告、○は今後の予定 表題の< >はシリーズ開催です —

新年のご挨拶

特定非営利活動法人 東京高次脳機能障害協議会(TKK)

理事長 細見 みゑ

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、健やかで希望に満ちた年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症一色の年でございました。

感染拡大防止のため、当法人 TKK も、実践的アプローチ講習会やリハビリテーション講習会、研修会等々、全国から大勢の方々に参加して頂く啓発及び支援事業(活動)は、自粛(中止)せざるを得ませんでした。

相談事業だけは、少人数事業でもあり切迫した内容や緊急性のためタイミングが重要なので、何とか続けてまいりました。

しかしながら、年が明けても感染拡大は止まらず、極めて高い感染者数のため、ついに、首都圏(1都3県)を対象にした緊急事態宣言が発令されることとなり、相談事業さえも自粛せざるを得ない状態になっております。

1日も早いワクチン接種の開始と、感染拡大の収束を願うばかりです。

さて今年こそ、高次脳機能障害者支援法(仮称)制定に向けた活動は元より、本来の TKK 事業を継続し、より発展させるべく、様々な方法を駆使して努力していきたいと思っております。

今日までの皆様の深いご理解とご協力に感謝致しますと共に、本年も、何卒宜しくお願い申し上げます。

-----∞  
【1】TKK活動

\* \*

-----∞  
●TKK 主催 勉強会 2020年10月24日 港区高輪区民センター 集会室

講演(1)サンバイオ株式会社の事業内容 講師:滝澤 圭史氏 主要事業:再生細胞医薬品の開発・製造・販売事業

講演(2)「高次脳機能障害者支援法(仮称)」制定に向けて 講師:小島 秀人氏(調布市福祉健康部障害福祉課主任)

==== 講演1では、滝沢氏より事業についてお話を伺いました。脳損傷者の今後に希望を与えて下さる内容でした。

講演2では、障害者福祉全般に詳しい小島氏が、多角的な目線で、「高次脳機能障害者支援法(仮)」制定に向けて、項目

毎にまとめ、わかりやすくお話し下さいました。加えて、説得力があったのは、今回は、調布市の利用者の数字を挙げられ、現場から浮かび上がる現状から、「高次脳機能障害者支援法(仮)」の必要性を話されました。

#### (1) 現行法律上の位置づけ

令和2年10月時点で、日本において、現行法律上の位置づけは、存在するのは2007年(平成19年)5月25日に発せられた厚生労働省の部長通知「高次脳機能障害支援普及事業の実施について」である。これをもとに、各都道府県、各市区町村が動いている。各都道府県で実施する支援事業の根拠に、東京都では「東京都心身障害者福祉センター」を拠点として実施。区市町村として、ちなみに調布市では、「障害者地域活動支援センタードルチェ」で実施している。

#### (2) 高次脳機能障害者支援の現状

手帳、福祉サービス、相談、就労、成年後見など

#### (3) 「高次脳機能障害者支援法(仮)」へ向けて

「例えば」の一案としてお考え下さい。と前置きされ、「発達障害者支援法」を参考に考えると、個別具体的な制度よりは「基本法」(理念法) \* 1としての性格が強いものとなる。\* 1) 当該分野の施策の方向付けを行い、他の法律や行政を導く役割を持つ法律  
・「高次脳機能障害」の特性は、個々人によって様々、しかし、ここでは個々の違いよりも「高次脳機能障害者」全体としての大きな共通点に目を向け、項目を整理していくことが重要。

終わりに・・・「高次脳機能障害者支援法(仮)」ができたからと言って、当事者、家族を取り巻く社会、制度、サービスの提供体制がすぐ、劇的に変わることは無いかもしれませんが、でも、「高次脳機能障害者支援法(仮)」ができることにより、その後の具体的な施策、サービスの充実を求めて続けていく大きな「根拠」「後ろ盾」になりますと、締めくくられました。

\* 2019年9月にTKK主催のアプローチ講習会にご登壇いただきました名古屋リハの鈴木智敦氏のご講演からも、「全国において地域格差がある。制度の流れの再構築、てこ入れの法が必要である。」というお話も伺いました。

メルマガ vol.46 もご参考まで。 <http://www.brain-tkk.com/tkk/pdf/TKKmailmaga46.pdf> === 理事 伊地山 敏

## ○＜医療及び家族相談会＞

2/14の第6回相談会は、開催予定です。

[http://www.brain-tkk.com/index/show\\_information.php?boardAct=view&readNum=240](http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=240)

---

## 【2】加盟団体等の活動

\* \*

---

### ○サークルエコー

基本的にzoomを活用したweb活動中心です。1月～4月は

・オンライントークイベントの深耕(結果の分析など)によるアウトプット

例)ホームページ、小冊子(計画)、特別企画(計画)

1/29に過去3回の意見交換・事例を整理して問題点の明確化

・zoomを活用した会員向けメニューの実施

例)オンラインおりがみ、オンラインヨガなどを予定。

毎月の活動:

第一金曜 13:00～15:00 web かふえ(会員以外どなたでも)、第二月曜 13:00～15:00 web 集いの場(家族会)

第二日曜 19:00～22:00 web すなっく、第四金曜 13:30～15:00 オンライントークイベント(家族会と支援者の意見交換)

## 〇つつじの会

「高次脳機能障害者への理解と基礎知識」 2月28日(日)13:30～15:30江戸川区コミュニティープラザ之江 集会室  
講師:渡邊 修 先生 ライブ配信も含め行います。

◇ 問合せ:オンライン参加:[shiho@soteria.jp](mailto:shiho@soteria.jp) 長谷川まで

---

### 【3】行政、他団体の活動

\* \*

---

〇<港区 高次脳機能障害理解促進事業 研修会> 港区立障害保健福祉センター6階多目的体育室

共通テーマ:『高次脳機能障がいの方を支援する為に』

【第1回 2021年1月20日(水)】～在宅生活、社会参加について～

【第2回 2021年2月3日(水)】～就労について～

講師:羽田 拓也 氏(東京慈恵会医科大学付属病院リハビリテーション科 医局長)

<開催案内> 開催時間:18:30～20:00(第1回、第2回共通)

対象:支援者・一緒に働いている方・当事者・家族・その他関心のある方、

先着100名 手話通訳・一時保育有り

◇申込先:電話 みなとコール 03-5472-3710 FAX 港区立障害保健福祉センター 03-5439-2514

申込み受付:【第1回】2021/1/13 17:00まで、【第2回 2021/1/27 17:00まで

★一時保育申し込みは開催日の一週間前までに、みなとコール 03-5472-3710へご相談ください。

〇都心障センター主催 WEB配信による高次脳機能障害者相談支援研修会(申込みは終了しています)

Webでの視聴期間:2月15日9時～2月21日17時、定員:450人

テーマ:「高次脳機能障害の基礎知識」講師:東京慈恵会大学第三病院 渡邊修先生

◇Webサイトにアクセスして講演録画を視聴する方式、

研修会案内 URL: <https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shinsho/kojino/seminar02.html>

〇国分寺市講演会 国分寺市障害者センター 地域活動支援センターつばさ 3月17日(水)18:30～20:15 前後、

講師:柴本礼氏 国分寺駅直結 リオンホール A・B 対象:支援者と家族会

※ zoom方式になるか否かは、今後の状況によって決定。

★東京都は複数の市区町村による2次医療圏、12医療圏単位で高次脳機能障害支援拠点(拠点病院)を設定しています。

以下に12医療圏および各区市での講演会、研修会、セミナーで開催済のものを紹介します。

## <12医療圏での活動>

●「区西南部医療圏 症例検討・講演会」 主催:玉川病院高次脳機能障害支援センター 2020年12月2日

ZOOMで開催、40数名が参加

- ・症例発表 高次脳機能障害でコロナ禍のため他のサービスに繋がりにくい症例  
NPO 法人いきいき福祉ネットワークセンター精神保健福祉士 坂田新吾氏
- ・感染力はないが、PCR 陽性のため退院が困難であった高次脳機能障害の症例  
玉川病院 言語聴覚士 中島明子氏
- ・講演 COVID-19と高次脳機能障害  
玉川病院 院長(支援センター長) 和田義明氏

==== 区西南部の高次脳機能障害者支援普及事業「専門的リハビリテーションの充実」の「症例検討・講演会」は「Web 開催」となりました。主催の玉川病院でも初めての試みで、参加者に対する事前のテストを数回行うことも含め、入念の準備をされ、12月2日の本番に臨みました。

「症例検討」では、『高次脳機能障害でコロナ禍のため他のサービスに繋がりにくい症例』を NPO 法人いきいき福祉ネットワークセンターの坂田新吾氏(精神保健福祉士)が、50代のB型施設に通所していた女性の例を話して下さいました。臨機応変が難しく、こだわりが強い方ですが、コロナ禍での新しい生活による混乱があり、「他者との接触を控えることが最良」という偏った思考になってしまったそうです。そのため、訪問リハなどの新しいサービスを拒否され、閉じこもり傾向になってしまったとのこと。

玉川病院の言語聴覚士、中島明子先生からは『感染力はないが、PCR 陽性のため退院が困難であった高次脳機能障害の症例』の報告。脳梗塞による高次脳機能障害(前頭葉症状、失語)のある80代の方が発症して3日目で入院、レッドゾーンでリハ開始をしたが、全身の筋力低下や廃用性症状が進行、その後のPCR検査でも陽性。厚労省の退院基準では「発症日から10日間経過し、かつ、症状軽快後72時間経過した場合」とあり、ある程度過ぎれば安全と言われているので51日目に陽性のまま退院。しかし在宅でのサービスとなると「陰性にならない」と受け入れが決まらない状況が続いたそうです。この方は手厚い家族介護の中、退院2週間後、5回目のPCR検査で陰性となったそうです。長い入院はQOLを狭め、身体機能を低下させてしまいます。ある程度過ぎれば安全と言われているが、どこで時間を過ごすかが大切になってくるとのこと。

講演、玉川病院院長和田義明先生による『COVID-19と高次脳機能障害』は、現状とさまざまな症状、海外との違い、さらに脳炎脳症、中枢神経合併症、脳の変化、肺や心臓の恒久的障害、集中治療後症候群、慢性疲労症候群など詳しい後遺症の話もありました。今後高次脳機能障害の原因の一つになるかもしれないとのこと。With COVIDでの高次脳機能障害の評価、通所、通院の問題などのリスク管理の問題など医療機関での対応、ワクチンのこと、コロナ罹患者への差別の話など、興味深い話が満載でした。

ZOOMでの研修会がどんな感じになるかも興味がありましたが、司会者が参加者のいろいろな方に意見を求めたり、活発な質問があったりと、通常の連携が生かされて貴重な意見交換が出来ました。==== 副理事長 今井雅子

- 2020.9 北多摩北部圏域(東京病院)web研修「失語症者向け意思疎通支援事業について」
- 2020.10 西多摩圏域(大久野病院)web研修「てんかん」
- 2020.11 区南部(荏原病院)Web研修「高次脳機能障害と復職支援」  
区西南部 大田区 症例検討会 集合形式
- 2020.12 区南部(荏原病院)Web講演会「笑顔の授業」

## <各市区での活動>

●2020.10 板橋区 高次脳機能障がいセミナー「高次脳機能障がいの理解と社会参加を促進するために」  
足立区研修会(集合)「高次脳機能障害とともに歩む」

2020.11 港区講演会 「地域で支える包括的支援の在り方～高次脳機能障害にとって主体性がカギ～」  
板橋区セミナー「高次脳機能障がい者の支援のポイントとネットワーク構築のために」  
品川区講演会 web 形式

中央区講演会「高次脳機能障害のリハビリテーションと就労について」

2020.12 杉並区セミナー(集合形式)「知ってほしい 高次脳機能障害」

2020.12 江戸川区高次脳機能障害普及啓発講演会 主催 NPO 法人東京ソテリア、

「脳機能障害と共に生きる、あなたと共に生きる」、会場またはオンライン参加

13:00 基調講演 鈴木大介氏

14:30 トークセッション『この時代を生きる』 柳浩太郎氏 × 柴本礼氏 × GOMA氏 × 鈴木大介氏

=== 「ZOOM で参加して」 「みなと高次脳」 高井玲子

新型コロナが流行り始めてからパソコン画面で誰かと交流する機会が増えました。そのなか初めて ZOOM で講演会に参加しました。会場で空気感を感じながら参加するのに慣れていましたが、ZOOM は登壇者のお一人お一人の表情を近くで見ることができるので、こういう方法も良いなと感じました。

しかし、開始後直ぐに画面が映らなくなってしまうアクシデントが発生、見ていた部屋の Wi-Fi 環境が悪かったためと分かるまで30分くらいアタフタしてしまい、基調講演が半分しか見られずもったいなかったです。

発信力があり発症後も本を出版し続けている鈴木大介氏。所属しているプロダクションのマネージャーさんに支えられ演劇活動に意欲をもっている柳浩太郎氏、退院後さらに表現活動が開花され評価を得ている GOMA 氏、ご自身の美術センスを生かして漫画という形で高次脳のご主人との生活を世に出し、寄り添うご家族としての立場の柴本礼氏、という個性が際立つ出演者たちの自然な交流。自然に感じたのは、前もって打ち合わせをされた江戸川区の地域活動支援センターはるえ野のスタッフの方々のご努力もあったと感じます。

前半の講演で鈴木氏が言っていた言葉「得意なことは挑戦できる。新しく覚えることは難しい。見逃されている得意なことに障害特性を踏まえた対策を」「このひとは助けてくれると分かると関係が深まり仕事しやすくなる。仕事は誰とすることが大事。」「なかなか SOS を出せないんです。恥しいと思ってしまった」「脳のエネルギーを無駄に消費してしまうので、肝心なところで発揮できない時がある」「緊張をコントロールするのが難しい」見ながらとったメモの抜粋です。

後半の全員でのトークセッションでは、終了間際に柳氏が「ずっと気になっていたんですが、お二人(進行係スタッフ)の T シャツの模様がお揃いですが、カップルですか？」これには私も大笑い。スタッフは「いいえ違います。GOMA さんデザインなので着ました」との返答。「アッ！ そうなんですね。なんか宣伝になっちゃいましたね！」と直ぐ反応する柳氏。若い好奇心溢れた率直な質問で和やかなうちに締め括られ、気持ち良い日曜日の午後になりました。

この「高次脳機能障害者支援事業普及啓発」は東京都より予算が各市・各区に出ます。まだ実施されていない地域は是非、計画を立ててもらいたいです。地域住民のため、行政と支援者の障害理解のために。 ===

=== 「基調講演を聴いて」 「杜のハーモニー♪」 伊地山 敏

鈴木大介氏の基調講演をお聴きし、家族や第三者が、当事者を理解しているとの思い込みが多分にあることを改めて認識いたしました。当事者である鈴木氏が、多くの当事者を代弁し、発信してくれていることの大切さを噛みしめました。そこから、理解が生まれ、そして、初めて寄り添えことになる。久々にとても心に響く講演に出会った思いでした。

当事者の心に寄り添うにあたり、鈴木氏が具体的に述べられたことを書き出します。

『・他の人の会話の掛け合いが、速すぎる。・話の輪に入っていけない。・話の最中に、どんどん記憶が消えていく。・たくさんの情報が入ってきて、全部が処理不能になる。そうした当事者の脳の状況を周りが理解して下さい。鈴木氏からの「本日最大のお願い」が、「当事者の脳を、情報処理の破局に追い込まないで！！」でした。

不安・不満・不快が脳にとって過大な情報処理になるのです。不安でいるより、信じられる人に頼ることが大事です。一人でやり遂げることは、何も立派なこととは限りません。頼れる人に SOS を出すこと。やれなくなったことでも、人に頼ると出来るんだ、ということを知ることで。自立と孤立は違います。

傾聴の三原則とは、1) ゆっくり。2) 話を遮らない。3) 全肯定から入る。

三大禁句とは、1) 大丈夫ですよ。2) 誰にでもあることですよ。3) 良く出来てますよ。

それよりも「そうか、辛いんだね。」と寄り添ってくれるのが良いんです。人に頼ることは大事。一人で出来る、自分で出来ると思っていた、そうした中でも、SOS を出したことで、関係が深まった、ということになれば、コミュニケーションが繋がった。ということです。さらに、障害を知識として勉強することは大事です。』

加えて、高次脳機能障害者数としては 40 代～60 代が多いのですが、数の多さにだけ焦点を合わせるのではなく、20 代、30 代、40 代、50 代の働き盛りの就労問題についてもアンケートを取りたい。調べたい、と鈴木氏は述べておられました。これは、全国的にみても、共通の問題と思います。鈴木氏は、当時にまでさかのぼって、かつ時系列に沿って、ご自分の内面を見つめながら話せる、数少ない方のお 1 人でした。だからこそ、貴重な講演会と受け止められたのです。 ===

以上